

# Smartな消費者になることが 自立への第一歩



「子どもはお金のことを考えなくていい」と言われて育った保護者の世代にとって、“お金の教育”というと否定的なイメージがあるかもしれません。しかし、時代は大きく変わってきています。あらゆる面で自己責任が求められる現代においては、お金についても例外ではありません。そこで今回は、家政学・生活経営学を専門に研究されている鈴木真由子先生に、自立した大人になるために大切な“お金の教育”について、お話を伺いました。小学生の今から、できることを始めてみませんか？



## 賢い消費者を目指して

今、小学校の家庭科の授業では、「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」と大きく4つの内容について学んでいます。中でも、新学習指導要領では消費者教育に関する教育内容の充実が図られ、「物や金銭の大切さに気づき、計画的な使い方を考えることや、身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること」などを学習することが重視されています。

つまり、上手な買い物ができるようにしましょう、ということなのですが、その中には、お金の管理だけができればいいのではなく、持続可能な社会を目指して、消費生活と環境がどんなふうにかかわっているのか、ということも考えていきましょう、という大事なテーマが含まれています。

「賢い消費者になろう」という言葉は、物がどんどん生まれた高度経済成長期に、消費をあまりながらも、巧みなセールストークに惑わされることなく買い物をしよう、

鈴木真由子（すずき・まゆこ）先生  
大阪教育大学附属平野中学校学校長・大阪教育大学 家政教育講座教授  
静岡大学大学院教育学研究科修了。専門は家政学・生活経営学。2012年より大阪教育大学教授、2014年4月より附属平野中学校学校長を務める。主な近著に「新版生活主体を育む 探究する力をつける家庭科」（ドメス出版）などがある。



## 親子で考えよう「お金」のこと

限られた収入の中で支払いができるよう、無理のない分割払いができるよう値段を調べよう、などといった自衛を促す意味がありました。しかし、平成のグローバル化された社会では、自分自身の収支バランスだけではなく、商品の生産背景を理解した上で、物の使い方、捨てる方法を考えた消費が求められていると言えます。

加えて、今の小学生たちは、多くの物に囲まれて育ち、物が無い状態が考えられません。ほとんどがあつて当たり前前の生活です。そこで改めて、自分自身のためだけではない、社会を考えたSmart（＝賢い）な消費者になるための授業が行われるようになったのです。

### お金の使い方を練習するおこづかい

先日、5年生の消費生活の授業を参観する機会があつたのですが、そこで驚いたことがありました。定期的におこづかいをもらっていない、という子どもがとても多かつたのです。必要に応じてお金はもらう、とのことでしたが、中にはもらっていない、という子どももいました。その子どもは、自分だけで買い物をしてお金を払う経験がほとんどない、と言うのです。大半がおこづかい制ではないので、おこづかいが足りなくなつて困つたことや、すでに持っている物を買つてしまつて同じ物が二つになつたこと、キャラクターがかわいくて買ったけど、本来の機能を果たさなくてがっかり

したことなど、今までならクラスのみんなで「うん、うん」と共感していた場面が少なくなつていたのです。

各家庭によつて考え方に違いはあると思いますが、私は小さい頃から少額のお金を管理するおこづかいには、賛成です。先程のような小さな失敗はとても大切だと考えています。失敗しないように自分なりに工夫し、それでもまた失敗して……後悔したり、新たな方法を学んだりする、という経験をくり返すことで、自分の満足を知ることが出来ます。限られた金額の中で収支のバランスを取り、満足を得るといふことは、自立した大人として当たり前前の行動です。おこづかいの使い方を通して、自己管理、自己責任を学んで、自立を促してほしいと思つています。

### 優先順位を判断する力をも身につけよう

また、ある授業では、「お年玉でもし1万円もらつたら、何に使いますか？」という問いを考えてもらいました。その中である子が「1000円で自分の欲しい物を好きなだけ買い、残り9000円は貯金する」と発表しました。すると「無駄遣いはよくない」「衝動買いは無計画だ」「でも、1000円だけ使つて残りは貯金するのだから、それは無計画ではない」「使わなかつたら無駄だけど、コレクションとして満足できるのだったらいい」「1000円すべてでなく、800円で満足した買い物ができ

たなら、200円も貯金すべき」など、様々な意見が出ました。この授業を通して、子どもたちは何が無駄で、どうすれば後悔しない満足のいく買い物ができ、賢い買い方につながるのかを考えたのです。

家庭科の授業の目標は、男女関係なく学校教育を受けた人全員が、自分で自分を養えるだけの自立の力を身につけることです。自分はこういうことができる、だからこういう仕事に就けばこれだけの収入が得られる、その収入の中で満足のいく生活を送れるようにしていくにはどうすればいいのか、まさに生きていく力とその根底にある価値観を学んでいるのです。

楽しみだけを手に入れて、本当に必要な物を買えない、というのではダメですよ。それが判断できるようになる練習に、私はおこづかいが最適だと思つています。ご家庭では、少額のおこづかいという範囲の中で本当に必要な物と、心を満たすために欲しい物の優先順位を判断し、その判断に責任を持つ勉強をさせてあげてほしいのです。また、一緒に買い物に行き、親の買い物の仕方を見せてあげるのもいいですね。限られた収入の中でのやりくり、節約の工夫は生きたお金の教育そのものです。生きていくのに何が必要なか、欲しいと思つた物は必要な物を削つても手に入れるべきなのか、安い物ならどんな物でもいいのか、判断できない大人も少なくありませんが、子どもたちには、買い物に与える影響を考えられるようになってほしいですね。